

フォローアップミーティング サウジアラビア・オマーン訪問

平成 25 年 5 月 17 日から 23 日まで、佐瀬専務理事がサウジアラビアとオマーンを訪問しました。今回の訪問では、第 32 回国際シンポジウムにおける講演を依頼するとともに、JCCP 事業に関する政策対話等を行うことを目的として、各社で面談を行いました。当センターから参与の山中、加須屋リヤド事務所長、西村中東事務所長が同行しました。

1. サウジアラビア

(1) 国際エネルギーフォーラム

(IEF: International Energy Forum)

本部訪問 (5 月 18 日)

リヤドの IEF 本部を訪問し、フローレス キローガ事務局長 (Dr. Aldo Flores-Quiroga, Secretary General, IEF) に本年度の国際シンポジウムの計画を説明し、その基調講演のお願いをしました。キローガ事務局長は大変日本に興味を持っておられ、現在調整中のスケジュールが合えば是非参加したいとのコメントを頂きました。また、JCCP のこれまでの研修の実績を踏まえて、IEF 本部を活用したワークショップや研修実施等、IEF の活動にも参加して欲しいとの要請を頂き、JCCP としてどのような協力が可能か検討することとなりました。



IEF 訪問 キローガ事務局長 (右から二人目)

(2) ペトロ・ラビグ (Petro Rabigh) 訪問 (5 月 19 日)

JCCP はサウジアラビアではサウジアラムコの他、少数ではありますがペトロ・ラビグからの研修生も受け入れており、今回は初めての同社訪問でした。工務部のアハメッド ナジ部長 (Mr. Ahmed Naji, Manager, Engineering Department) から、より多くの研修生の受入れや腐食・防食分野に関する専門家派遣と特別コースについての要請を受け、今後検討していくこととなりました。



ペトロ・ラビグにて

(3) キング・アブドゥラ科学技術大学

(KAUST: King Abdulla University of Science and Technology) 訪問 (5 月 19 日)

技術協力事業におけるカウンターパートとして可能性のある KAUST を訪問し、同大学の高鍋和弘准教授に大学の現状を何うとともに大学内を視察させて頂きました。同大学は 2009 年に開校した大学院大学で、サウジアラビアでは初めての男女共学であり、現在約 700 名の学生を有しています (授業料は無料)。将来は 2000 人規模の大学となる予定で、各学部が共通して使用できる実験施設 (Core Laboratory) をはじめ、世界でも最新鋭の実験機器等を備えています。教授陣は現在 100 名程度ですが、将来は 200 名に増員する計画とのことでした。学生は全世界から集まっており、アジア人が最も多く 33% を占めていますが、そのほとんどは中国人とインド人で日本人はゼロ (9 月より 1 名入学予定) だそうです。また、サウジ人は 20% で、将来は 50% まで比率をあげることになっているとのこと。キャンパスと居住区は紅海に面しており、福利厚生施設 (医療費も無料) をはじめ、その環境は素晴らしいものでした。

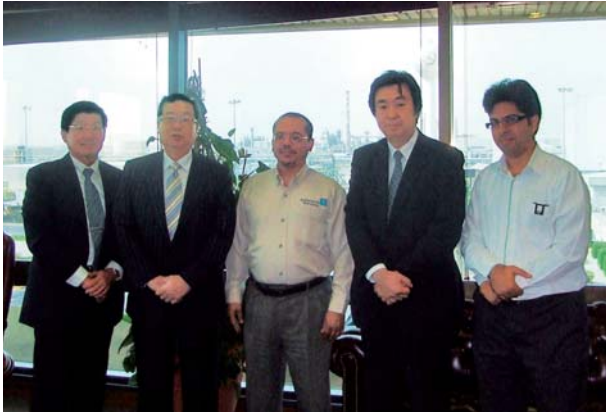
サウジアラムコは同大学の設立費用の拠出をはじめ、最大のスポンサーのひとつであり同大学との関係強化を進めています。JCCP としても同大学との協力を具体的に検討する必要があります。

(4) サウジアラムコ ジェッタ製油所訪問 (5 月 20 日)

アル・デリビ製油所長 (Mr. Abdullah A. Al-Deribi, Manager, Jeddah Refinery) 並びにラジャブ部長 (Mr. Ahmed A. Rajab, Superintendent) と面談し、研修ニーズ等について意見交換を行いました。アル・デリビ製油所長は 1989 年の JCCP 研修の卒業生で、欧米の研修会社と比較

し JCCP 研修を高く評価しており、喫緊の課題である運転部門でのヒューマンエラーの防止・最小化に大きな関心を寄せられ、その分野での特別コースの実施に向けて検討することになりました。

また、面談中にサウジアラムコ本社から出張で当製油所を訪問中の石油精製・NGL 本部長 バズヘア氏 (Mr. Omar S. Bazuhair, Executive Director, Refining & NGL Fractionation) が、わざわざ来られて「JCCP には人材育成等の分野でいつもお世話になっており感謝する。引き続き宜しくお願ひしたい」との言葉を頂きました。



ジェッタ製油所 ラジヤブ部長 (中央)

(5) 在サウジアラビア日本国大使館訪問(5月18日)

小寺大使に面談し、今年度の海外ネットワーク事業による JCCP 研修同窓会をサウジアラビアで開催すべく検討中である旨を説明し、開催した場合のご出席をお願い致しました。また、サウジにおける同窓会開催に際しての注意事項について貴重なアドバイスを頂きました。

2. オマーン

(1) オマーン政府石油ガス省訪問 (5月21日)

オマーン政府石油ガス省のルムヒ大臣 (Dr. Mohammed Hamed Saif Al Rumhy, Minister of Oil and Gas) を表敬訪問しました。佐瀬専務理事とルムヒ大臣とは5年ぶりの再会



オマーン石油ガス省 ルムヒ大臣 (中央)

です。大臣は最近の日本情勢に大変興味を示され、安倍総理の下での政治・経済情勢についての質問がありました。また、大臣の日本留学中の早稲田大学での生活について、興味深いお話を伺いました。和やかな会談ではありましたが、交換留学生制度に関しては強い要望をお持ちでした。

(2) オマーン国営石油精製・石油産業会社 (ORPIC: Oman Refineries and Petroleum Industries Company) 訪問 (5月21日)

ORPIC のミナ・アル・ファハル製油所を訪問し、マフルキ CEO (Mr. Musab Al Muhrqi, CEO) と面談しました。既に JCCP についてはよくご存知で、これまでの研修・技術協力事業に関して感謝の言葉を頂きました。また、石油化学分野の研修ニーズについて説明されました。こちらからは国際シンポジウムでの講演の依頼をさせて頂きましたが、マフルキ CEO は来日の経験が無いとのことで、スケジュールが許せば是非参加したいとお答えを頂きました。



ORPIC マフルキ CEO (中央)

(3) 在オマーン日本国大使館訪問 (5月21日)

久枝大使と面談し、オマーンにおける事業活動状況や、ルムヒ大臣との面談で交換留学の希望が出されたこと等を報告申しました。大使からは、オマーンで求められている若い年齢層の就業支援のための教育訓練の状況等、興味深い情報を頂くことが出来ました。

3. まとめ

今回の訪問で、シンポジウム参加の依頼については前向きな意向を得られました。また政策対話では、ジェッタ製油所長自身から日本独特の研修を強く要望され、ORPIC の CEO からも新しい分野での研修を要請されました。各地の現場でも石油産業がダイナミックに変化していく中、フォローアップミーティングも定期的に実施する必要があると痛感するとともに、得られた貴重な意見を事業活動に活かすべく検討せねばならないと考えております。

(総務部参与 山中 明夫)